

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 57 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語及び数学。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- 平均正答率の全体的な分布状況は、低位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 51／泉佐野市 60／大阪府 63／全国 64.7）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 1一 上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する。(61.4/77.5) 1二 〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する。(61.4/74.9)</p> <p>【読むこと】 ○2四 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。(14.0/29.7)</p>	<p>【書くこと】 ○3二 目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。(38.6/56.6)</p> <p>【言葉の特徴や使い方に関する項目】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う。 3三(1) 三アウエ（ころがっている）(61.4/78.3) （つみ重ね）(29.8/54.4) （げんいん）(56.1/79.0) 3三(2) イ 文の中における主語と述語との関係を捉える。(42.1/67.0)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか。	43.9	58.4	○	14.5
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。	75.4	82.2	◇	6.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。	59.6	63.8		4.2
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。	61.4	71.6	○	10.2
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。	71.9	74.3		2.4
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。	96.5	97.5		1.0
解答時間は十分でしたか。	35.1	71.3	○	35.2

- 「国語の勉強は好きですか」の項目では、全国に比べて-14.5%と差がある。国語に対する苦手意識があり、正答率からも読解力、語彙力、要約する力を育む取組が必要と考える。
- 漢字や言語の問題の正答率、無解答率が高い。文章に触れる機会を増やすなど、日常生活の中でも漢字や言語に興味関心が持てるよう工夫する必要がある。
- 「解答時間は十分でしたか」の項目では、全国に比べて-35.2%と差があり、最後まで問題ができず、途中であきらめてしまう傾向がある。問題の解き方に慣れる必要がある。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じだが、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 57／泉佐野市 68／大阪府 70／全国 70.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
【変化と関係】 1（2）速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する。(75.4/86.7) 【図形】 2（1）直角三角形の底辺と高さを捉え、面積の求める式と答えを書く。(40.4/55.1) 2（3）二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と考えを書く。(38.6/46.0)	【データの活用】 ○帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。 3（4）帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、項目と割合を書く。(38.6/52.0) 3（5）多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ。(61.4/73.9) 【数と計算】 4（2）8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。(47.4/55.5)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	61.4	67.8	◇	6.4
算数の勉強は大切だと思いますか。	93.0	93.8		0.8
算数の授業の内容はよく分かりますか。	82.4	84.6		2.2
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	87.7	92.6		4.9
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	85.9	89.0		3.1
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	91.2	91.9		0.7
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか。	91.5	97.8	◇	6.3

○記述式の問題での無解答が全国より上回っている。しかし、記述式の例が示されていれば書くことができている。問題に慣れることで、正答率の向上につながると思う。

○長い文章や資料と照らし合わせて読む力が全国より下回っている。資料活用の力・読解力をつける取組が必要である。

○「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の項目では、全国を4.9%下回った。「算数の勉強は大切だと思いますか」の項目では、全国に比べて0.8%下回っており、実生活と結びつけた授業展開の工夫が必要と考える。

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外に質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差があるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	1日あたりのゲームをする時間が全国を上回っている。	(5) 普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。（3時間以上） <u>(56.2/29.0)</u> (25) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。（40.3/52.4）
【家庭学習の様子】	家で計画を立てて学習している児童の割合が全国を下回っており、授業以外の学習時間も全国を下回っている。	(17) 家で自分で計画を立てて勉強していますか。 <u>(63.1/74.0)</u> (18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。（2時間以上） <u>(12.3/26.9)</u> (63) これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。（36.9/44.4）
【学校での学習の様子】	自分から進んで困っている人を助ける割合が全国より下回っている。 自分で課題を立てて調べたことを発表する活動を、積極的に取り入れる必要がある。	(10) 人が困っているときは、進んで助けますか。 <u>(56.0/88.7)</u> (27) あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。（週1回以上） <u>(14.0/39.0)</u> (36) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。（91.2/95.5） (39) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。 <u>(49.7/73.0)</u> (40) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。（66.7/73.4）

本校の取組

◎これまでの取組

(1) 研究主題と研究体制

本校では、国語を中心とした「話すこと・聞くこと」を研究主題とし、自分の考えを書き、友だちに伝える力を育む授業づくりを進めている。「書くこと」への抵抗をなくすために、「語彙力・要約力」を高める取組として、朝学習で「ことばプリントや要約プリント」を実施している。また、児童集会では、話を聞いて、「プリントに書いてまとめる」取組を実施し、聞く力・書く力の育成に努めている。

(2) 学習規律の確立「学びがつくる5つのとびら」

学習に対する「学びをつくる5つのとびら」に学校全体で取り組んでいる。①筆箱の中身をそろえよう②下敷きをしよう③姿勢を正そう④友だちの話を聞こう⑤自分の考えを発表しよう、5項目から学期に1つずつ重点目標を定め、学習規律の確立に努めている。今年度は、1学期に③、2学期に①を重点目標に設定し、毎日朝学習の時間に放送で呼びかけている。

(3) 少人数・習熟度別指導

3年生から6年生は、学級担任と少人数担当による習熟度別による分割した授業を行い、児童の実態に沿った個別学習を行っている。

また、毎日宿題を必ずするよう「宿題指導」を実施している。宿題で間違った問題や分からなかった問題を解決したい児童や、宿題が苦手な児童に対して、少人数担当が中心となり、毎日昼休み、算数教室で支援を行っている。

(4) 学習の定着

本校の実態から、基礎計算や九九の定着に課題があり、中・高学年で苦戦している様子がみられる。意欲を持ちながら、基礎学力を身につける一環として、中・高学年が低学年にたし算・ひき算・九九を教える「けいさん応援隊」を、学期に1回実施している。

(5) 家庭学習の推進

家庭学習の大切さを意識することをねらいとして、年度初めに「家庭学習のてびき」を全児童に配布し、学期に1回「家庭学習 week」を実施している。家庭学習の習慣を身につけ、宿題以外に自学プリントやクロムブックを活用して、復習したことをまとめる取組を進めている。

◎これからの取組

研究教科を国語科とし、重点的に取り組んでいるにも関わらず、今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語が依然として全国平均と差があり、引き続き研究を深める必要がある。本校の課題を改善するために、以下のことに取り組んでいく。

- 読解力・要約する力をつけるために、授業の中で、文章の全体を読み取る(はじめ…提示・意見、中…例、終わり…まとめ・意見)ワークシートを活用する。また、朝学習で取り組んでいる「ことばプリント」「要約プリント」に引き続き取り組む。
- 資料を読み取り、解答する問題に課題があるため、問題の解き方を指導し、問題に対する抵抗感を減らしていく。
- 記述式の問題への抵抗感があるため、自分の考えを文章でまとめる活動を積極的に取り入れていく。授業では、見通しをはっきりさせ、自力解決で自分の考えを書けるよう工夫していく。
- 文章や漢字の定着のために、10問の漢字小テストや50問テストをくり返し練習する機会を設ける。また、教室や図書室の本の環境を整え、読書活動を継続し、文章や漢字に慣れる機会を多く設ける。